

保	育	の	父	・	佐	竹	音	次	郎	に	学	ぶ	会	★	通	信
	音	次	郎	会	◆	I	N	F	O	◆	v	o	l	.	1	7

ホームページ：<http://otojiro.link>
eメール：info@otojiro.link
取引銀行 幡多信用金庫 下田支店 普通預金 88502
(名義) 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会 会長 中平菊美
ゆうちょ銀行 振替口座 01650-8-43162
(名義) 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会

高知新聞7.17号に「板垣退助の墓所に標柱 命日に合わせ顕彰会が設置」という記事が掲載されておりました。音次郎会では総会が終わり、史跡への案内板設置について具体的に取組もうと考えていた時でした。8月定例会でその作戦会議が終わってから、又もやの事です。

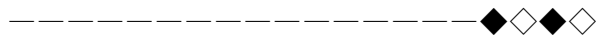
高知新聞9.15号に「植木枝盛生誕地の石碑移設、年内にも案内板設置」という記事が掲載されておりました。他の地元の偉人顕彰会も「頑張っているのだなぁ」と、思われました。

音次郎会では年内に1つは、不案内の竹島に点在する遺跡のうち「辞世の句碑」について先行的に、案内板設置と石碑の移転を計画しております。さらに具体的に討議をしたいと思っておりますので、次回の会合にご出席の上、お知恵を賜れば幸いです。

保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会（通称：音次郎会）から会員の皆さまに会報（メールマガジン）をお届けします。

◆◇ INDEX ◆◇

- 【1】音次郎の生写真が発見される
- 【2】音次郎関連6書籍の電子化が完了する
- 【3】10月定例会の御案内



【1】音次郎の生写真が発見される

このほど四万十市竹島の片山慧宅から音次郎の生写真が発見されました。見つかった写真は音次郎が1928年（昭和3）11月に藍綬褒章を受領した時の記念写真と、1941年（昭和16）1月16日に音次郎生家に大久保利武筆の記念碑が建立された時の集合写真です。

「聖愛一路」によれば、藍綬褒章受領を記念として鎌倉ハリス記念幼稚園にて祝賀会を開いたのですが、音次郎の着ていたフロックコートは袖が短く丈も短かったとの事。今回発見された音次郎の生写真は写真館で撮影したようなポートレートで「鎌倉保育園 創立百周年記念誌」にも掲載されていますが、記念撮影をするために貸衣装を身にまとったものと思われる。音次郎の生写真の多くは散逸しており、この藍綬褒章の記念撮影が生写真として見つかったのは大変貴重です。

また、生家での集合写真も今回初めて見つかった生写真です。これは1940年に当時の鎌倉保育園長である佐竹昇・伸夫妻が音次郎の遺骨を竹島墓地に分骨するため中村に来られた時の写真です。佐竹伸は音次郎の次女です。竹島墓地への分骨は音次郎が生前に自ら墓石も手配して遺言していた事です。この時、生家の庭にも大久保利武（大久保利通の三男）が筆を執った記念碑が建立されました。その石碑の前で佐竹昇夫妻を中心に30名ほどで記念撮影をした写真です。写真には数名の子供の姿もありましたので音次郎の精神は次世代に受け継がれているらしく見えました。

この生写真が片山宅から見つかった理由ですが、音次郎が困っている人々を救うために奔

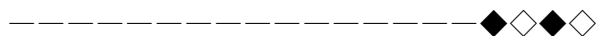
走っていた頃、片山家は造り酒屋で潤っていました。このため音次郎に対して片山家は多くの支援をしていたようです。

この片山家は、音次郎の生家である宮村家と同じ竹島の中で近所であり姻戚関係にありました。宮村家の4男として産まれた音次郎が紺屋町の佐竹染め物店の養子に行くようになった理由も、この片山家と養父の家が姻戚関係であったことに関わりがあるようです。

音次郎が佐竹姓を名乗ることになった紺屋町佐竹家は、現在のマルサ醤油の佐竹家の分家だと考えられます。残念ながら郷土史家の上岡正五郎氏の「佐竹家の歴史」やほかの著書を調べても、音次郎の義父・友七が現在のどの佐竹家と繋がっているのかは解明できていません。しかし友七の妻・馬（音次郎の義母）は竹島の安田家出身であり、片山家と安田家も姻戚関係がありました。また、片山家と音次郎の実家である宮村家は少なくとも3代続けて姻戚関係にありますので、音次郎の事を自分の身内のような気持ちで応援して下さったのでしよう。

音次郎が存命中、最後の手紙を書いていた相手が片山正好氏であり、今回、生写真が発見された家です。絶筆となった手紙では音次郎が片山氏に完成したばかりの「聖愛一路」を同封して送ろうとしていた事を読み取ることができます。残念ながらこの手紙は片山氏に送られることはありませんでした。しかし音次郎が藍綬褒章受章の記念写真を送ったり、没後、竹島に記念碑が建立された時も、娘婿の昇氏から片山家にその集合写真が送られたり、交流は続いていました。

保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会の会員であった片山慧さんは今年7月に逝去されましたが、郷土の偉人・佐竹音次郎の1つの歴史を紐解いて下さいました。今回の発見は慧さんの甥である浦田前会長が遺品整理をされていたからこそ叶いました。浦田前会長のご尽力と、写真を提供して下さいました遺族の方にも心から感謝申し上げます。



【2】音次郎関連6書籍の電子化が完了する

音次郎会では高知県立・高知城歴史博物館さんの全面協力により、縁者より寄贈された毛筆の音次郎日誌（日誌の原本）を電子化しております。撮影された約1万枚にも及ぶ画像は3月11日に城博さんから音次郎会に納入されました。現在、事務局により撮影された画像を丹念に確認・修正する作業を行っており、本日現在85%が完了しております。

また、寄贈された貴重な史料類の目録作りに関しては特定非営利活動法人 四万十市シニアネットワーク 代表 川山芳輝氏のご尽力により電子化が進んでおります。こちらにつきましても貴重な史料を受け取ってからすでに3年以上が経過しましたが、城博さんとの作業と平行して進め、受け取った史料の全品目リストを1日も早く完成させたいと、取り組んでおります。

一方、過去に出版された冊子体についても今後の研究の便宜を図り電子化に取り組むことになりました。こちらは現代社会のペーパーレスの潮流の中で、電子化作業を請け負う多くの業者がございます。その中から会談の結果、信頼が置ける東京の業者と電子取引の上で、作業を委託しました。9月14日に電子化されたデータが納入されました。

電子化の利点は、パソコンなど電子媒体上で閲覧・講読することが可能で、冊子体のように厚みや重さがなく、可搬性に優れています。また、文字の大きさも電子媒体の液晶画面が許す範囲で自在に拡大・縮小が可能であり、マクロ的かつミクロ的に読解することができるようになります。さらに、電子的に生成された活字データも併録されておりますので、それを手がかりに検索することも可能になります。

電子化されたデータはPDF（Portable Document Format）という形式で納入されました。しばらく事務局にて重大な読み取りミスが存在していないかを確認の上、今後、著作権の事

